

在外公館文化事業 事業例

◆ 親日層の維持形成を目的として、在外公館が主催(共催)する日本文化紹介事業



中南米9公館

「書で中南米スペイン語圏をつなぐ」

(令和4年(2022年)1~2月)

- 中南米スペイン語圏を舞台に9公館連携による横断型オンライン事業を開催(在アルゼンチン大、在ペルー大、在ドミニカ共和国大、在コロンビア大、在エクアドル大、在グアテマラ大、在パラグアイ大、在レオン総及び在サンタクルス領事事務所による共催)。
- 連携広報の結果、アジア、ヨーロッパ及びアフリカを含む計40か国・地域から参加申し込みがあり、29か国の書道ファン等が実際に参加。



米国(ワシントンDC)

「コスプレ衣装展」

(令和4年(2022年)9~11月)

- 在米国日本大使館広報文化センターにて、「世界コスプレサミット」の歴代アメリカ代表衣装の展示を実施。
- 併せて元世界コスプレサミット・アメリカ代表のダイアナ・トリン氏によるレクチャーを開催。
- 700名を超える来場者があり、若年層や30歳以下のヤング・プロフェッショナル層を中心に対日関心の喚起、親日層の開拓に大きく寄与した。



コートジボワール

「コートジボワール空手日本大使杯」

(令和5年(2023年)11月)

- コートジボワール空手・武道連盟と共催し、現地の空手家を対象に空手大会を開催。
- 約150名を参加予定としていたところ、SNSだけではなくチラシやジャパン・コーナーで呼びかけたこと等の成果により予想以上の約500名の人数が集まった。
- 「日本大使」の名を冠した本大会名を見出しに96名の空手家が参加し本大会の詳細を伝え、現地スポーツ紙やラジオで取り上げられる等、日本の文化を発信する良い機会になった。

国際交流基金(文化芸術交流事業)

■ 公演・展覧会・日本映画上映会・日本の図書の海外紹介等の実施又は支援
演劇、音楽、ダンス、美術、建築、デザイン、文学、映像など、多様で豊かな日本の文化芸術を世界各地に向けて発信。文化と芸術を通じて日本のこころを世界の人々に伝え、言葉や習慣の違いを超えた共感と親近感を生み出し、また、共に創造する喜びを分かち合って、人と人との交流を深める。



ミニシアター特集配信企画 JFF+ INDEPENDENT CINEMA

- 日本各地に点在する「ミニシアター」を紹介するとともに、各シアターから推薦された作品を中心に配信する特集企画を2022年度から実施。
- 作品配信にとどまらず、監督・出演者等のインタビュー、ミニシアター紹介映像など、日本の映画文化の現在に接近するためのさまざまなコンテンツを発信。
- 2022年12月～2023年6月に実施したミニシアター企画第1回では、120以上の国・地域からアクセスあり。



舞台公演オンライン配信プロジェクト STAGE BEYOND BORDERS

- 日本の優れた舞台作品を、YouTube上にて多言語字幕付きで全世界に発信するプロジェクトを2021年に開始。
- 現代演劇、ダンス、伝統芸能、音楽など多様な日本の舞台公演を累計128本配信(2024年2月9日時点)。
- 視聴者は2023年3月時点で137の国・地域から約1,800万人に上るなど大きな反響。



海外での巡回展事業の実施

- 広く全世界に向けた継続的な事業展開として、陶芸・工芸・日本人形など日本の伝統美を紹介する展覧会から、現代美術・写真・建築・デザインなど現代の日本を伝える展覧会まで、多岐にわたる約15の巡回展を実施。
- 年間100以上の美術館、文化機関などで開催されており、主要国・地域はもとより、日本文化に触れる機会が限られている国・地域も含めて世界中に常時巡回。

映像コンテンツ海外展開事業

事業の内容

幅広い層への訴求が期待できる「映像コンテンツ」を利用して、日本の多様な魅力を伝え、日本文化への理解を促し、日本への親近感を醸成することを目的とした対日理解促進事業を、国際交流基金の内外ネットワーク・知見を活用し、2023年に日ASEAN友好協力50周年を迎えたASEAN諸国等、外交上の重要性が高まっている国・地域等において効果的に実施。

リアルでの映画上映

- ・劇場等で行うリアル上映会
- ・監督・出演俳優/声優、制作関係者も参加
- ・日本映画祭「JFF(Japanese Film Festival)」の経験を活用



カンボジアでの日本映画祭(JFF)会場風景

オンラインとリアルを効果的・有機的に連携させた事業展開

いつでもどこでも日本の映像コンテンツ
に触れられる環境の提供

コンテンツ

- ・ポスト・コロナのインバウンド回復に資する日本のアニメ、ドラマ、映画、ドキュメンタリー等
- ・日本で実施予定の大型国際イベント開催に合わせた日本紹介コンテンツ 他

オンラインプラットフォームにおける 映画・テレビ番組の配信

- ・時間・場所を選ばず視聴可能なオンライン配信型の映像提供
- ・ユニークユーザー数100万人を超える（令和3年度）日本映画発信ウェブサイト「JFF+」を活用しつつ、動画配信可能なプラットフォームを構築
- ・若年層への普及率・利用率が高いスマートフォンでアクセス可能
- ・映像コンテンツ関連情報の多言語提供



期待される成果・効果

視聴可能者数の拡大（量的な広がり）、
視聴者の対日関心・理解の増進（質的な深化）

日本文化への理解促進、日本への信頼醸成

周年国等外交上の重要国・地域の 幅広い層からの 対日関心・信頼拡大

- ・2023年に日ASEAN友好協力50周年を迎えたASEAN諸国等、外交上の重要性が高まっている国・地域等において、幅広く浸透し得る映像作品を活用することで、幅広い層からの共感・感動を通じた対日理解促進に貢献

日本の地方の文化の発信

- ・映像を通じて日本各地の多様な魅力を発信することにより、日本の農産品、地場産品、文化等に対する関心及び需要を醸成し、日本経済の好循環に貢献
- ・地方の魅力発信によってインバウンド拡大にも寄与

インバウンド回復・ 労働人材の来日増

- ・日本のアニメ、ドラマ、映画、ドキュメンタリー等、日本の魅力を生かした映像コンテンツを発信することで、日本への関心を喚起、対日理解を促進し、インバウンドや労働人材等、訪日外国人増に貢献

日本の映像コンテンツの 認知度向上・ファン拡大

- ・大手配給会社が海外の配信プラットフォームへの作品提供を行っていない中、「JFF+」での配信で認知度を高め、日本の映画人の派遣・オンライン出演等の実施を通じ、ファンの拡大に貢献

日本国際漫画賞



2024年2月

文化交流・海外広報課

- 海外への漫画文化の普及と漫画を通じた国際文化交流の促進を目的として、優れた漫画作品を創作した海外の漫画作家を顕彰するため、毎年実施。
- 2007年、麻生太郎外務大臣(当時)が創設。これまで16回実施。外務大臣を委員長とする実行委員会が主催。
- 令和5年度(2023年度)の第17回は、82の国・地域から過去最多となる587作品の応募があり、最優秀賞1作品(台湾)、優秀賞3作品(香港、ベトナム、スペイン)を含む受賞15作品を選定。
- 作品審査は漫画家の里中満智子氏を委員長とする漫画家・漫画雑誌編集者で構成される審査委員会を実施。受賞作は、審査委員会の審査を実行委員会が承認し決定。
- 最優秀賞及び優秀賞受賞者を1週間程度招聘し、日本の漫画家との懇談や関連団体訪問の機会を提供。



第17回最優秀賞
『青空のもと、風追う少年』
簡嘉誠(台湾)



第16回日本国際漫画賞授賞式
(2023年3月2日)



第17回優秀賞
『時間列車』
ボニー・パン(香港)



第17回優秀賞
『ザ・ダンシングユニバース』
ナチ(ベトナム)



第17回優秀賞
『ただの友達』
アナ・オンシナ(スペイン)

【参考】第1回から第17回までの応募作品の国・地域及び作品数

	第1回 (2007)	第2回 (2008)	第3回 (2009)	第4回 (2010)	第5回 (2011)	第6回 (2012)	第7回 (2013)	第8回 (2014)	第9回 (2015)	第10回 (2016)	第11回 (2017)	第12回 (2018)	第13回 (2019)	第14回 (2020)	第15回 (2021)	第16回 (2022)	第17回 (2023)
国・地域数	26	46	55	39	30	38	53	46	46	55	60	68	66	61	76	77	82
作品数	146	368	303	189	145	245	256	316	259	296	326	331	345	383	483	503	587

第17回日本国際漫画賞
スケジュール

募集: 2023年4月~7月
第一次審査: 同年8月
最終審査: 同年11月
授賞式: 2024年3月5日

留学生交流事業

【令和6年度予算案 69百万円の内数】

事業概要・目的

- 文科省が留学中の施策を実施し、外務省は、主に「入口」（来日前）と「出口」（帰国後）を担当。
- 本省経費
国費留学生の選考試験問題等の在外公館への送付費用等。
- 在外経費
国費留学生の募集選考、渡日前オリエンテーション、留学アドバイザーによる広報・情報発信、相談対応、帰国留学生会の組織化及び活動支援、帰国留学生を活用した対外発信事業。

事業イメージ・具体例

- 日本への留学生数はコロナ禍で減少し約23万人（2022年5月現在在籍者数）。教育未来創造会議（議長：総理）の提言にて設定された2033年までに40万人の留学生を受入れるという目標達成のため、現地在外公館は、留学アドバイザー、帰国留学生等を活用し、正確な日本留学情報の発信・広報活動を実施。
- 在外公館にて国費留学生の募集選考（応募者総数約3万4千人）、採用者（約1400人）への渡日前オリエンテーション実施。
- 対日理解の拡大等に不可欠な帰国留学生の組織化（帰国留学生会は世界に226組織、会員数約11万2千人（2023年在外公館調べ））やその活動を支援。
- 在外公館は母国等の各界で指導的立場にある帰国留学生約2万人分（2023年在外公館調べ）を把握し、我が国の施策について常時インプットするとともに、帰国留学生を活用した日本文化紹介等の対外発信事業を実施。

期待される効果

- 日本留学に関する正確かつ統合的な情報、日本の魅力を発信することにより適正な形での留学生受け入れ、留学生数の拡大に貢献する。
- 優秀な国費留学生を確保し、帰国留学生会等の組織化及び活動支援を行うことにより、対日理解の拡大・促進を行う。

対日理解促進交流プログラム (Japan's Friendship Ties programs)

令和6年度

目的

- 諸外国・地域の優秀な青年を対象に、日本に対する関心と理解を向上させ、また、プログラム経験をいかした活動をしてもらうことで、**日本への関心・理解・支持を拡大**し、我が国の**外交基盤を拡充**する。
- 参加者の専門性、関心分野に沿って、政治、経済、社会、文化、歴史及び外交政策等に係る**対日理解を促進**し、参加者からの**対外発信の強化**を図る。

概要

【地域別名称（対象地域）】 JENESYS2024（アジア大洋州）
カケハシ・プロジェクト（北米）
MIRAI（欧州）
Juntos!!（中南米）

JENESYS



【事業】（1）招へい・派遣（2）オンライン交流（3）フォローアップ

【対象者】 高校生～社会人等

【期間】 招へい・派遣：10日間程度（オンライン・対面によるハイブリッド形態）

【規模】 約11.8億円、招へい・派遣 約1,770人

事業の実施形態

日本政府（事業方針に沿って推進）
（拠出金支出）

国際機関等（事業の実施団体を選定・委託）
（拠出金管理）

実施団体等
（プログラムの企画・実施）

（参考）国際機関等：ASEAN事務局、SAARC事務局等、合計11機関

外国報道関係者招へい

【令和6年度予算額:36百万円の内数】

1. 概要

- 外国報道関係者を個別又はグループで日本に招へいし、政治、経済、文化等の幅広い分野における最新の日本事情等に関する視察、有識者へのインタビュー、政府関係者によるブリーフィング、地方訪問等の取材機会を提供。
- 日本政府の立場・政策や、日本の実情を正確に伝える報道を促すことで、国際社会における対日理解を促進し、日本にとって好ましい国際世論を醸成する。また、外国メディアとの関係を強化し、親日派の関係者を育成する。

2. 接遇

- 期間
本邦着・発日を含めて最長8泊9日。
- 滞在プログラム
日本の政策広報上の重点課題や外交行事、記者の具体的な要望等を考慮して作成。エスコート兼通訳が同行。
- 経費
招へいに要する航空賃、本邦滞在費は外務省が負担。

3. 近年の実績

- 令和5年度:9か国14名の招へい、3件のオンライン取材を実施予定。
- 令和4年度:12か国12名の招へい、7件のオンライン取材(延べ75か国140名以上が参加。)を実施。
- 令和3年度:1か国1名を招へいし、35件のオンライン取材(延べ87か国274名が参加。)を実施。
- 令和2年度:8件のオンライン取材(8か国15名が参加。)を実施。
- 令和元年度:28か国43名の招へいを実施。



見出し:「和食と酒とのデート」
(インド記者による和食料理研究家・日本酒ソムリエへの取材)



見出し:「日本は次世代列車技術を生み出す」
(トルコ記者によるリニア技術の取材)

日本特集番組制作支援事業

【令和6年度予算額:5百万円の内数(TVチーム1件分)】

1. 概要

- 世論形成に影響力のある諸外国のテレビ局取材チームを日本に招へいし、最新の日本事情等に関する視察、有識者へのインタビュー、政府関係者によるブリーフィング、地方訪問等の取材機会を提供。
- 日本の実情を正確に伝えるテレビ番組を制作・放映させることで、当該国をはじめ国際社会における対日理解・対日感情を一層向上させ、日本にとって好ましい国際世論を醸成する。

2. 待遇

- 期間
本邦着・発日を含めて最大7泊8日。
- 滞在プログラム
日本の政策広報上の重点課題や外交行事、テレビチームの具体的な要望、当該国での発信ニーズ等を考慮して作成。制作主任・通訳が同行。
- 経費
招へいに要する航空費、本邦滞在費は外務省が負担。

3. 近年の実績

- 令和5年度:トルコのテレビチームの招へい
- 令和4年度:カンボジアのテレビチームの招へい
- 令和3年度:タイのテレビチームによるオンライン取材
- 令和2年度:トルコのテレビチームによるオンライン取材
- 令和元年度:ポーランドのテレビチームの招へい

令和元年度 ポーランドTVN社

日・ポーランド国交樹立100周年の機会を捉え招へい

【和食、農産物、先端技術等を発信】

- ポーランドと所縁のある愛媛県において、100周年特集番組を撮影し、その合間に、伊方町のみかん農家やシロウオ踊り食いを取材・収録。
- 取材の結果、豊洲市場、包丁職人等の映像も含む日本食紹介番組「Japan on the Plate」(45分)が放映され、100周年特集番組(60分)やその他の番組内でも、両国関係に加え、日本在住ポーランド女性棋士・アニメ技術者、愛情系ロボット等が紹介された(延べ放映時間225分)。

